

我即神也の印 Q & A

西園寺昌美会長への質問

1994年7月、富士聖地において我即神也の印が降ろされて以来、世界中からその印について質問が寄せられてきました。以下は、それらの質問に対する西園寺昌美会長の回答です。

Q. まず、お聞きしたいのは、何故、我即神也の印を組むのかということなのですが…。

A. 人間というものは本来、すべてが整い、すべてが大調和の中にある、宇宙の法則にのっとった存在でした。そしてその大調和した世界をこの地上に創造すべく天降ったのです。

しかし歳月を重ねるうちに、やがてその宇宙の法則を外れ、本来の自分を忘れてしまったのです。今は、まさに人類が目覚め、本来の自分を思い出す時となりました。

本来の自分とは、生命そのものの自分です。無限なる自由

エネルギーが否定的な結果をもたらすわけです。否定的な想念を持っては、その否定的な響きが言葉となって周りの人々に否定的な影響を及ぼすでしょう。そしてまさにそれと同じように、私たちが肯定的な真理の言葉を語れば、それらの言葉は人々を勇気づけ、輝かせ、幸せにするのです。

印もまた波動、とても強いエネルギーの波動なのです。印の一つ一つの動作は直に宇宙法則とつながっていて、印を組むことによって素晴らしい力強い無限なるエネルギーを受け取ることが出来るのです。

ですから、印を組むとどうして自己変革が起きるのかということがお解りいただけたかと思います。

本当の自分に気づき、本来の使命を思い出し、何を心に刻みつけていけばよいのかということが判るのです。

「我即神也」という意味は自分は神であるということです。現代ではほとんどの人が自分は神であるとは思っていません。しかしあなたがあなた自身を神であると感じることが出来たならば、あなたはごく自然に自分と他人が一つであることが判り、自然や生きとし生けるものすべてがつながっていることを知るでしょう。すべてのものは皆一つであり、一つのいのちとなって存在しているのだということを実感をもって体験するでしょう。

に満ち溢れた、無限なるすべてのものを内包する、生命そのものである輝かしい自分です。

私たちは宇宙の根源の世界から生まれて来たもので、まさに宇宙の根源と同じものなのです。宇宙の根源を親とすると、人間は子供ということになります。

我即神也の印を組むということは、それを思い出す作業なのです。

私たちは本当は何だったのかということをお思い出し、本来の自分に目覚めるわけです。

宇宙というものはすべてエネルギーによって成り立っています。エネルギー、もしくは波動ともいえます。言葉はエネルギーであり、想いもエネルギー、そして行動もエネルギーです。

ですから私たちが否定的な言葉を使うと、その否定的なエネルギーがすべてのものがいのちとして一つに結ばれているということが判った時、もはやあなたは今までのあなたではありません。あなたは変わるのです。自分を変えることが出来るのです。不平不満だらけの自分も、悲しく不幸な自分も、妬み心のある自分もみな、変えることが出来るのです。

なぜ人はこうも否定的な想念にとらわれてしまうのかというと、それは自分と他のものとはまったく別の存在だと思っているからです。自他の分離感にとらわれているからなのです。

印はすべてのものが一つのいのちであることを思い出させてくれるものです。印には深い意味があります。一つひとつの動きが真理を意味し、真理を表わしています。ですからたとえ印を組む人がその意味も分からず組んだとしても、組みつけてゆけばいつの間にか必ず、真の自己に目覚めていくのです。

私が天よりこの印を受け取った時、「何時いかなる時であろうとこの印を組む者の上に確かな証（あかし）が現われるであろう」という宇宙神の響きを同時に受け取りました。印はどんな言葉より、どんな想いより、どんな行為よりもはるかに強い力を持つものなのです。

Q. 我即神也の印はどのような形で組めばよいのですか？

A. まず右手、左手それぞれに親指と人差し指で輪を作り、その輪を鎖のようにつなぎ合わせます。これは如来印と言って完全円満を意味します。右手はプラス（陽）、左手はマイナス（陰）の働きをします。

この世はすべてがプラス（陽）とマイナス（陰）のエネルギーから成り立っていて、もしもどちらか一方のエネルギーしか存在しなければ、何一つ動かず、何一つ働かず、何一つ生まれもせぬ静寂の世界が在るのみなのです。何も出て来ない。だからこの世にはプラス（陽）とマイナス（陰）のエネルギーがあるのです。

プラス（陽）エネルギーとマイナス（陰）エネルギーは互いに結合したり入れ代わったりしながら働きを成します。私たちの肉体も同じ仕組みなのです。

我即神也の印は、まず如来印から始まり、種々な動作があった後に最後にまた如来印に戻ります。

Q. 印のそれぞれの動作にはどんな意味があるのでしょうか。

A. 印の一つ一つの動作には深い意味があり、確かな働きがあるのです。それを一言で説明するのは簡単ではありませんが、できるだけ皆様に印のすごい力や真理の目覚めを促す働

きを理解していただけるように簡単に説明したいと思いますが、印を組む時、各々の動きに合わせて発声を行いますが、この時私たちは自然に息を吐き出しています。そして一つの動作を終えれば息を吸い込むわけです。それぞれの動作の意味は次のようになります。

（まず如来印を組む）

一番目の動作（ウーの発声）

私は宇宙と一つである。宇宙根源の無限なるエネルギーを受ける。

二番目の動作（ウーの発声）

そのエネルギーを額のチャクラに刻印する。そのエネルギーはチャクラから肉体のすべての細胞に流れてゆく。

三番目の動作（ワーの発声）

本来の私は、宇宙の光であり真理そのものである。

私は大自然に対して、無限なる威厳、無限なる美、無限なる

の歓喜、無限なるいのちの光を放つ。

十番目の動作（ナーの発声）

私は宇宙の無限なるエネルギーを受け、大自然として生きとし生けるものすべてを包み込み、天に還す。

十一番目の動作（合掌・リーの発声）

宇宙根源の神に全感謝を捧げる。

十二番目の動作（息を止めたまま）

過去のすべての過ちは赦され消え去り、神なる私が顕現されるのだ。

（もとの如来印にもどる）

七番目の動作（クーの発声）
私は動物、植物、その他生きとし生けるものと一つに結ばれている。

八番目の動作（カーの発声）

私は人類として生きとし生けるものに対して、無限なる感謝、無限なる喜び、無限なるいのちの光を放つ。

九番目の動作（ミーの発声）

Q. 海や山などの自然とふれあう時に印を組むとよいとお聞きしましたが、何故でしょう。

A. 今まで人類は不調和な想いや言葉、行為で動物や植物などの自然界のエネルギー磁場を傷つけてきました。

印はそんな傷ついたエネルギー磁場を還元していきます。純粋な新たなるエネルギーによって、自然界の動植物のみならず、生きとし生けるものすべてが、その本来の自然治癒力を発揮するようになるのです。

Q. なかなか自然とふれあうチャンスかない人はどうしたらよいのでしょうか。

A. たとえ外に出て行けなくても、自然界を癒すことは出来ます。心の中に自然界の動物、植物、水、山など、あなたがエネルギーを送りたいというものを描き、そのイメージに向かって印を組めばよいのです。

Q. 印を組む時、特に目的を持って組むとよいと伺いましたか。

A. 特に宇宙法則にかなった良い目的がある場合、印はその目的の達成に向けて集中的に働きます。印の効果は明らかに表われますから、この体験を一つ一つ積み上げていくと、やがてそれは確信となり、より真剣に、より数多く印を組むようになるでしょう。その結果、印のすごい力がより強く発揮されていくことになります。ですから焦点がぼやけていると、印の効果も弱くなりますね。

分けて認識しなければならぬということです。

宣言する時のあなたは、今話をしている表面上のあなたではないのです。

宣言する時のあなたは、本当の自分、無限なる存在のあなたなのです。本心のあなたが語り、純粹で光り輝く場を作り上げるのです。

これを認識すれば堂々と宣言できるでしょう。

Q. 我即神也の印は誰が考えたのかという質問をよく受けますが……。

A. 我即神也の印は人智によって考案されたものではありません。地球人類が自分たちの神性に目覚め、難なく二十一世紀へと進化を遂げられるようにと、宇宙根源の世界から降りてきたものです。

Q. 西園寺昌美先生はこの我即神也の印を地上で最初に受け取られた方ですか、どうしてそんなことが出来るのかと不思議がる人もいます。

A. 本当は誰だつて宇宙根源の世界からの啓示を受け取ることが出来るのですよ。しかしながら今の地球は、嵐の中の荒れ狂う海原のようなもの。不調和の荒い波が逆巻いていて、

Q. 印を組む前に宣言文を唱えるということですが。

A. 宣言文を唱える時、これから組む印にむけて私たちの肉体と心の波動が整っていきます。私たちのすべての細胞を調和させ回復させます。それによって細やかで美しい印が組めるようになるのです。

Q. 印を組むにあたって、何か特に心掛けておくことはありますか。

A. 覚えておいていただきたいのは、あなたが真心を込めて印を組む時、あなたの神性が発現し、あなた自身のみならず周りも浄まるということです。印は人類の未来にとって欠くことのないものです。この印を組みつつける人は、人類を真の幸福と輝かしい未来に導く大いなる役目を果たすことになるのです。

Q. 「我即神也」と宣言しようと思っても、自分の日頃の想いや言動が不調和のままなので、気がひけると言う人もいます。

A. ここで一番重要なことは、感情想念にとらわれたり、不調和な想いを出している表面意識の我と、本来性の真我とを普通の人々が宇宙根源の靈妙微妙なる波動をとらえることは容易なことではありません。

五井先生は私を受け取る役目をすることをお望みになつて、私が二十歳になった頃から訓練を始められました。その訓練には、それこそいろいろな段階があつたのですが、いずれ自叙伝を出す時に詳しく書きたいと思っています。

私が何時いかなる時にも、どんな局面に相対しても、常に不動心で平静であることが出来るのは、その五井先生の訓練の賜物なのです。

五井先生は1980年に肉体世界を去られました。今も宇宙根源の世界からご指導を続けてくださっています。私への指導というのは、肉体と心の両面に及びます。うちの会(白光真宏会)の人は皆知っていることですが、以前、毎日8時間祈りつつける(統一状態)という課題がありました。その課題は、私がアメリカ、ヨーロッパなどの外国にいる間、数カ月続きました。

それは実に深い祈り(統一)でありながら、いろいろな働きも同時に持っていて、とてもこの世の言葉では言い尽くせません。その中には印の多様性を学ぶということもありましたし、また一方で自分が身を置く国や大陸の不調和を浄めるという働きも含まれていました。

こういった課題をこなすうちに、私はどんどん、より微妙なる宇宙根源の波動をキャッチできるようになりました。そしていよいよ我即神也の印が、時と場を得て宇宙根源の世界からこの地上に降ろされた時、私は見事に受け取ることが出来たのです。

それは譬えていうならば、ラジオの電波をとらえるような感じです。

何か或る大事な番組を聞きたいと思いつつも、やみくもにダイヤルを回しても聞こえるのは電波ノイズばかりです。しかしながらよく訓練された人であれば、その電波ノイズの中から音声拾い出すことが出来ます。私の宇宙からのメッセージの受け取り方はそんな感じなのです。

こんなふうに言えば、まるで私がたった一人でこの任務をこなしているかのように聞こえるかもしれません。ある意味ではその通りなのですが、皆様の世界平和の祈りの応援は、私がこの任務を完(まっとう)するに当たって大いなる助けとなっているのです。いつも皆様に心から感謝しています。次に知っていたきたいのは、ひとたび私が「我即神也の印」を受け取ったならば、他の人々もこれをキャッチしやすくなるということです。

これも譬えていうならば、山登りを想像してみてください。

のは、一方からではなく、あらゆる角度から一度に見渡せます。つまり、上からも、正面からも、側面からも、内側からも、一度にすべて明晰に、一瞬にして見渡せるものなのです。

それは、一瞬の間に、それこそ全く完璧に届くのです。

例えば、あなたが一枚の紙のような二次元的なものの上に、三次元の物体を描くとしたら、点線などを用いて見えない部分を表現しなければなりません。

印をこの三次元世界の制約の中で表現するのは、それよりもはるかに難しい作業なのです。それでもあえて表現するならば、本来一つのものである印を幾つかの部分に分けて説明しなければなりません。

手の動きとか、視点のありかたとか、呼吸の仕方とか……これらは本来一つの動きなのですが……

私の印を人が見ても、それはある側面をとらえたに過ぎません。前から見る人には私の後ろは見えず、私の手の裏側も見えません。私の呼吸すら感じることは出来ません。

特に呼吸は大変重要なものであり、私が常々ゆっくり呼吸をしないと言いつづけているのも、このためなのです。

もしもあなた方が本当に正確で完璧な印を組めるようになったならば、あなた方の肉体は完全に調和して、病気もたちどころに治つてしまいます。しかしそれにはもつと数多く

あたり一面に背の高い草木が生い茂り、何処に頂上があるのか、どうやって辿り着くのか、まるで見当もつかないかもしれません。でもそこに前の人が歩いた小道があったならば、次の人はずいぶん楽になるでしょう。そしてそこを次々に人が通る度に小道は徐々に大きくなり、ついには大勢の人が楽に山に登ることが出来るようになるのです。この最初に小道をつける役目が、私ということなのです。

Q. 最初に宇宙根源の世界からこの印を受けられた時、どんな感じで受け取られたのですか？ 誰かがやってみせてくれたのか、あるいはご自分の身体を通して感じ取られたのか……

A. それは身体を通して感じに近いものです。

私が統一して宇宙神から印を受け取る時、誰かがやってみせてくれるわけではありません。何に譬えればいかと云うと、強いて言えば一度にすべてが見える映画、あるいはコンピューターやインターネットの仕組みのように、大がかりであつて細かいところまで正確なもの……。それは細部に渡るまで鮮明にはつきりと見えます。完璧なものです。

そしてもう一つ付け加えるならば、それは三次元世界の映像ではなく、四次元的な視界なのです。四次元的視界というのは練習を積まなければなりません、嬉しいことに皆さんの印は日々素晴らしくなっています。

Q. 印のすべてを一度にとらえるということについて、もう少し詳しく教えていただけませんか？ 目で見る感じではないと言いますが……

A. そうです。それは目で見るものではありません。視覚を越えたものなのです。四次元的なものを見るということは、一つの視点に止(とど)まることなく、時間空間の制約なしに瞬時にして何処へでも移動して情報をとらえるということです。

一つの例として私たちがあるビルを見てると想像してください。それは病院としましょう。四次元的な目でこれを見た場合、建物の外観以上のものが見えてきます。その建物の中の別々の部屋にいる一人一人の患者さん、そしてその健康状態まで把握できるのです。誰がやがて退院してゆくのか、そして誰がまもなく死を迎えるのかということまでその場で分かるのです。この人は今気分がいい、あの人は身内を亡くした人だ、などということが即座に分かるのです。四次元的なものを見方とはこのようなものです。

あなた方が印を組んでいる時、あなた方の肉体の状態も同

時に見えます。血管が、筋肉が、骨が、内臓が、そして細胞の一つ一つまで、細部に至るまで、私にはつきりととらえることが出来るのです。あなた方の細胞がどのように動いているのか、どうやって働いているのか、どんなふうにして作られていくのかをつぶさに観察できるのです。そしてあなた方の組む印が、自らの一つ一つの細胞や遺伝子に生き活きと働きかけていくのが分かります。だから常々私は、印というものは調和を生み出す最も確実な方法だと述べているのです。

Q. だから先生は、印は科学だとおっしゃるのですね。

A. その通りです。四次元の世界から見れば、結果は明白であり、実証済みのことなのです。何となくとか、想像上のこととか、そんなものではないのです。四次元の世界ではどんな部分でもすべてはつきりと識別できます。だから、印が調和したエネルギーをもたらし、肉體細胞を活性化させると断言できるのです。この「活性化」というのは「目覚め」を意味します。印は我々の細胞が本来持っている無限なる能力を目覚めさせるのです。

印は複雑で難しく見えるかもしれませんが、ぜひ挑戦してみてください。また、あなたの出来る範囲で、我即神也の宣

言文を唱えればいいのです。あるいは「我即神也」と唱えつづけたり、宣言文の最初の一行「私が語る言葉は神そのものの言葉であり：」の部分をくり返しくり返し唱えてもいいのです。

私たち人類は瞬々刻々、努めて自らの意識を高め上げ、本来の無限なる能力を引き出してゆかねばならないのです。

Q. 最後にお聞きしたいのですが、もし肉体的な理由で印が組めない時はどうしたらいいのでしょうか。

A. 今、病床にある人も、腕や指が不自由な人も心の中で印を組むことが出来ます。イメージの力を使って心の中で正確に印の各動作を描いてください。また、発声が出来ない時は、気を集中させて心の中で正しく発声してください。

たとえ私たちの肉體がどんな状態にあらうとも、私たちの霊的なボディは常に完全であり完璧なのです。私たちの霊体は心でイメージした通りに印を組んでいるのです。

(1999年2月、4月)